

スポーツに関心持つて

熊本市で市民フォーラム

2020年の東京五輪、パラリンピックに向けた市民フォーラムが24日、熊本市中央区のホテル熊本テルサであった。早大オリンピック・パラリンピック教育研究センターの主催で、地域の人の心を高めるのが狙い。県内の学校や競技団体の関係者ら約120人が参加した。

1998年の長野五輪スキーノルディック複合

日本代表の荻原次晴さん、リオデジャネイロ・パラリンピックの柔道男子60^キ級で銀メダルを獲得した広瀬誠さんが、五輪出場時の体験談などを交えながら講演。荻原さ

んは「いろんな苦しみを味わったけど、その全てのおかげで目標にたどり着けた」と双子の兄・健司さんと比較されることに苦しみながら五輪を目指した経験を語った。

リオ大会後に競技生活を引退した広瀬さんは「今後パラリンピックが障害者理解を進めるきっかけになってほしい」などと話した。

また、熊本大教育学部



講演する荻原次晴さん
＝熊本市中央区のホテル熊本テルサ

の中川保敬教授を交えて「熊本からオリンピック・パラリンピックムーブメント」と題したシンポジウムもあった。

(丁将広)